「コロナ禍に脅かされるアジアの市民社会と私たち」

コロナ禍を理由にフィリピンではドゥテルテ政権が反テロ法を発動して、市民社会活動を制限する現状が顕著にみられます。また、スリランカなどアジアのいくつかの国でも同様の動きがあり市民社会スペースが狭められています。

一方で日本国内では、コロナ対策として政権が国民に自粛をよびかけ、それに応えるように 市民が市民を監視することによりその活動が委縮しています。

アジアの現状に学びつつ、日本の課題についても振り返ります。





■日時:2020年10月3日(土) 15:00-17:00 (参加無料)

■定員:70名(要予約・先着順)

■プログラム(イベント内容は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。) 開会:(司会)佐伯奈津子 名古屋学院大学第一部 各国の現状と事例共有

- ①フィリピンの市民社会の現状:波多江 秀枝 国際環境NGO FoE Japan 委託研究員
- ②フィリピン事例 麻薬撲滅作戦による不当 な殺害:中島隆宏

名古屋NGOセンター代表理事

- ③スリランカの市民社会の現状 :ハーマン・クマラ (英語通訳あり) スリランカ全国漁民連合代表
- ④日本の市民社会の状況:八木巌 名古屋NGOセンター代表理事、NANCIS幹事 質疑応答

第二部 ディスカッション

閉会:(司会)

■開催形式:Web会議サービス「Zoom」 *事前にこちらからインストール(無料)

をお願いします。

http://zoom.us/download#client 4meeting

■参加登録:要事前申し込み。 参加登録はこちらのリンクから http://nangoc.org/information/103.php

- *お申し込みいただいた方へは、事前に 参加用のZoomURLを送付いたします。
- * 当日15時迄。但し定員に達し次第締切
- ■連絡先:名古屋NGOセンター【本日~前日 17時まで】info@nangoc.org

(当日はつながりません)

【本日~当日】taka-n@kem.biglobe.ne.jp

(担当:中島)

■主催:名古屋NGOセンター ■共催:アジア保健研修所(AHI)

■協力:東海市民社会ネットワーク、

NANCiS(市民社会スペースNGOアクションネットワーク)